

# 福岡県散乱ごみ対策事例集

令和7年3月

# はじめに

海洋プラスチックごみの約8割は陸域で発生していると言われており、その多くは河川や水路等を通じて海へ流出していると考えられています。

これらのごみの発生を抑制していくためには、河川を含む陸域での対策が極めて重要であり、海岸を有する地域だけでなく、内陸地域から沿岸地域にわたる関係者が一体となって発生抑制対策に取り組む必要があります。このことは、海岸漂着物処理推進法<sup>※</sup>に基づく「基本的な方針」においても示されています。

福岡県では、令和5、6年度に、県内の5つの河川を対象に、河川及びその周辺の陸域の散乱ごみの状況を調査し、併せて、発生源対策の検討、対策効果の検証等を行いました。調査の結果、河川を通じて流出するごみは季節や時期を問わず一定量存在することが分かっています。

本事例集は、県内の各市町村等に対し、域内の散乱ごみ対策の計画立案及び実施に際し参考となる情報を提供し、対策の実施を支援することを目的としています。

<sup>※</sup>美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律

# 目 次

1. 河川ごみ実態把握調査 結果概要	1
2. 散乱ごみの発生場面	6
3. 対策事例	14
アプローチⅠ ポイ捨てさせない	
対策① 看板	15
対策② プランター	21
対策③ 除草	25
対策④ 持ち帰り用ごみ袋の配布	29
アプローチⅡ 不法投棄させない	
対策① 看板（強い警告等）	31
対策② 監視カメラ	32
アプローチⅢ 散乱させない	
対策① 害獣対策	37
対策② ごみ箱の設置	39
アプローチⅣ ごみを拾う	
対策① 清掃活動	41
その他の対策 環境教育・啓発	43
4. 福岡県内の散乱ごみ対策状況	45

## 【別冊】福岡県散乱ごみ対策事例集 資料編

※本事例集に掲載している写真のうち、出典の記載がないものは、「【別冊】福岡県散乱ごみ対策事例集 資料編」から抜粋している。

県内の河川ごみの実態を把握するため、河川を流下するごみ、河川敷の散乱ごみ、河川周辺の陸域散乱ごみ、河川水中のマイクロプラスチックに関する調査を行いました。

調査は、御笠川（福岡市、大野城市、太宰府市）、釣川（宗像市）、長峽川（行橋市、みやこ町）、建花寺川（飯塚市）、堂面川（大牟田市）の5河川、各3地点で実施しました。また、令和5年度は渇水期（1～2月）、令和6年度は出水期（9～10月）を調査時期としました。

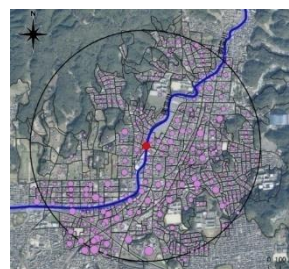
本事例集では、主に御笠川の調査結果を中心に記載しています。



筒井橋（大野城市）



下川原橋（太宰府市）



白川橋（太宰府市）

▲【御笠川】調査地点周辺の人口分布（赤い丸が調査地点）

## ① 河川を流下するごみ調査

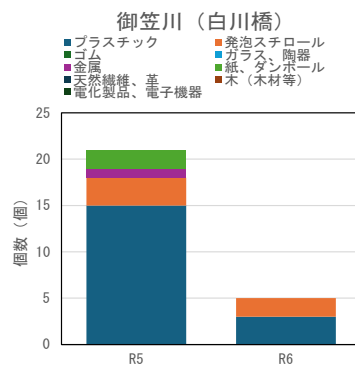
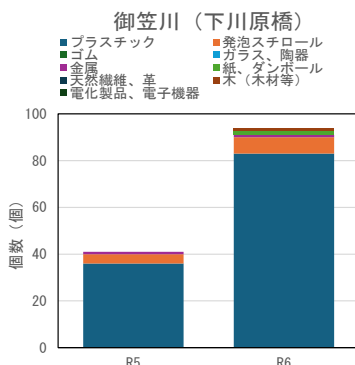
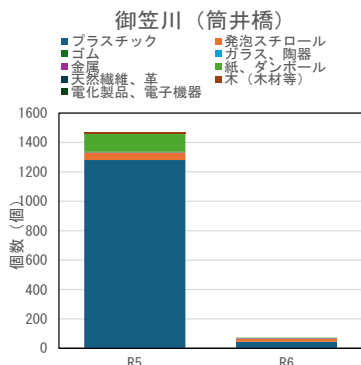
### 【調査内容】

河川にネットを設置し、流れるごみを捕捉する調査を3日間行いました。捕捉したごみは24時間毎に回収し、個数や組成を調査しました。

### 【調査結果】

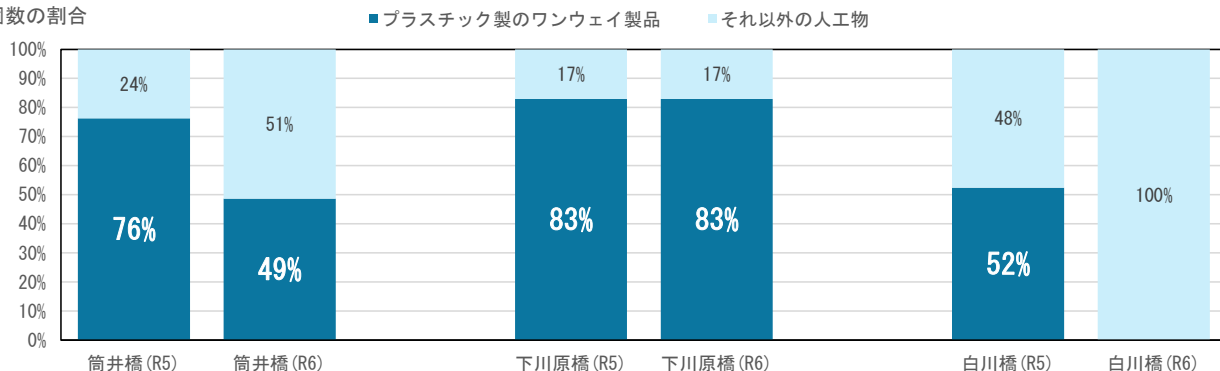
令和5年度、6年度調査のいずれも、プラスチックごみが多くを占める結果となりました。組成については、調査年度による大きな変化は見られず、調査時期による明確な差も確認されませんでした。なお、筒井橋では、個数が大きく変動していますが、令和5年度調査時は、調査中の降雨の影響で、たばこの吸い殻が多数捕捉された影響によるものです。

プラスチックごみの組成をみると、使い捨て、いわゆるワンウェイ製品の割合が、概ね50～80%を占めていました。ワンウェイ製品では、ペットボトルや食品容器包装、たばこの吸い殻等が見られました。



▲ 御笠川の組成調査結果（令和5年度と6年度）

個数の割合



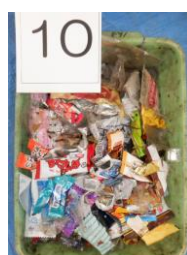
▲ プラスチック製のワンウェイ製品の割合（御笠川）（令和5年度と6年度）



ボトルキャップ



ペットボトル



食品容器包装



レジ袋



包装材



たばこの吸い殻



使い捨てマスク

▲ プラスチック製のワンウェイ製品の品目例

**【参考】**

降雨直後に行った調査では平常時よりも多くのごみが捕捉されました。

降雨に伴う河川の増水による河川敷（低水敷等）からの流入、雨水による陸域からの流入などが主な要因と考えられます。



降雨直後に捕捉したごみ

## ② 河川敷の散乱ごみ調査

### 【調査内容】

河川敷のごみを目視で調査し、ごみの分布のランク付けを行いました。目視で確認したごみ量と右の表を対応させ、区間（1区間200m）の散乱ごみランクを決定しました。

また、ランクが高い区間のごみを回収し、組成調査を実施しました。

### 【調査結果】

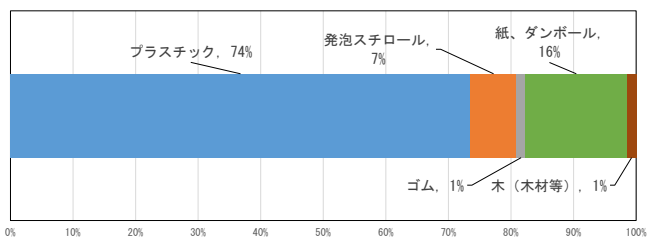
御笠川各調査地点のランクは、概ねTT～2の範囲で、橋梁下やその付近でごみが多くみられました。このうち、ランク2（散乱ごみの量が約10L）の区間で散乱していたごみは、7割がプラスチックごみでした。また、河川敷の草等に引っかかったごみや、中身入りのレジ袋も見受けられました。

● 散乱ごみ：河川延長方向10mの範囲で回収したごみの量（袋量）

● 粗大ごみ：1箇所のごみの量（袋量）

ランク	20Lのごみ袋数 （範囲）	回収した際のごみの容量のイメージ	容量 (L)
0	0袋	(自然物を除いて) 全くごみがない	0
TT	約1/16袋 (1/10袋以下)	500ml ペットボトルが1～2本程度	1.25
T	約1/8袋 (1/10～1/5袋)	2.0L ペットボトルが1本程度 500ml ペットボトルが3～4本程度	2.5
1	約1/4袋 (1/5～1/3袋)	2.0Lのペットボトルが2本程度	5
2	約1/2袋 (1/3～2/3袋)	2.0Lのペットボトルが4本程度 200～350mLの飲料缶が15本程度	10
3	約1袋 (2/3～1.5袋)	2.0Lのペットボトルが8本程度 200～350mLの飲料缶が30本程度 ポリタンクならば1本程度	20
4	約2袋 (1.5～3袋)	2.0Lのペットボトルが16本程度 ポリタンクならば2本程度	40
5	約4袋 (3～6袋)	2.0Lのペットボトルが32本程度 みかん箱ならば3箱程度	80
6	約8袋 (6～11袋)	ドラム缶が1本未満程度	160
7	約16袋 (11～23袋)	ドラム缶が1.5本未満程度	320
8	約32袋 (23～42袋)	ドラム缶が3.0本未満程度	640
9	約64袋 (42～90袋)	一立方メートル程度	1280
10	約128袋 (90袋以上)	軽トラで一台分程度	2560

▲ ランク表



▲ 御笠川筒井橋のごみ分布ランク



食品容器包装



河川敷の草にひっかかったごみ

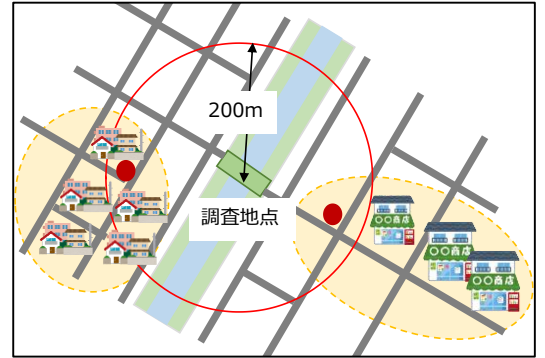


中身入りのレジ袋

### ③ 河川周辺の陸域散乱ごみ調査

#### 【調査内容】

河川周辺の陸域における散乱ごみの分布状況を調査しました。調査範囲内（起点から200mの範囲内）における公道、公有地を踏査し、ごみの散乱場所や性状を記録するとともに、ごみ量によるランク付けを行いました。



#### 【調査結果】

- ・ 街中の草木が繁茂している雑種地や暗い雑木林内等、普段人が立ち入らない場所（容易にアクセスは可能）では、粗大ごみや大きめの金属・プラスチックごみを多く確認しました。
- ・ 廃屋・廃事業所には、その場所に起因するものではなく外部からのごみが集まってくる（投棄される）事例もありました。
- ・ 通学路では、菓子包装や飲料ペットボトル・空き缶等も多く確認しました。
- ・ 開放型の側溝（開渠）にごみが散乱・堆積している様子を確認しました。
- ・ 小売店の周辺において、小売店由来のその場で飲食等されたと思われるごみを確認しました。
- ・ 車の交通が多く、歩行者の少ない道路でごみを多く確認しました。生活環境から距離があり、周りからも見えにくい空間であったことから、車からのポイ捨てが主たる要因と考えられます。



雑木林



車の交通が多く、歩行者が少ない道路

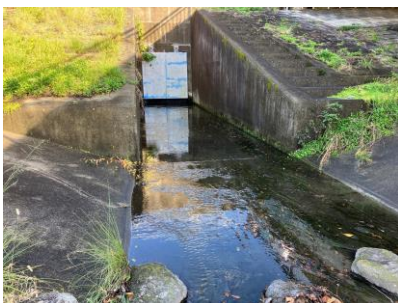


廃事業所



側溝（開渠）

ごみが堆積することもある水路・側溝は街中に張り巡らされています。水路が河川に繋がる部分（水路終端）で、多くの陸域由来ごみを確認できた場所もありました。陸域における散乱ごみは、水路を通過して河川へと到達することが分かります。



河川に繋がる水路



水路終端の陸域由来のごみ

## ④ 河川水中のマイクロプラスチック調査

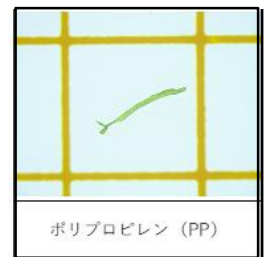
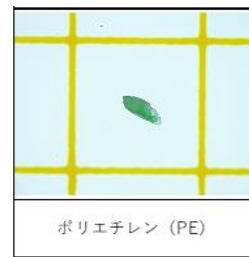
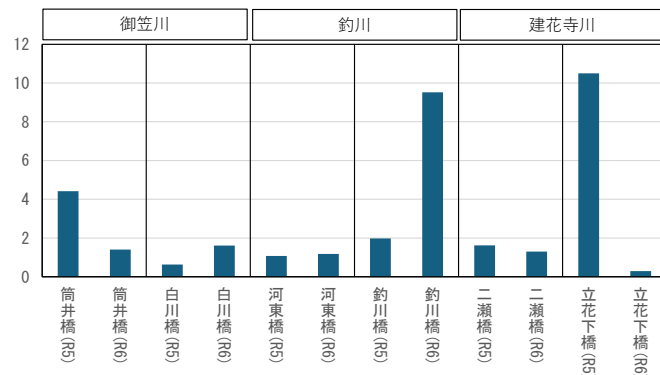
### 【調査内容】

河川水中のマイクロプラスチックを採取し、個数や形状、材質等を調査しました。ここでは、令和5年度と6年度に調査を行った御笠川（筒井橋、白川橋）、釣川（河東橋、釣川橋）、建花寺川（二瀬伊橋、立花下橋）の結果を記載しています。

### 【調査結果】

調査時期の違いを要因とした個数密度の特徴的な変化はみられませんでした。また、いずれの地点もポリエチレン（PE）やポリプロピレン（PP）の割合が高い結果になりました。これらの素材は、軽くて耐熱性が比較的高い性質を持ち、生活雑貨等の原料として用いられている材質です。これらが、紫外線や風雨等により劣化、微細化することで、マイクロプラスチックの発生要因となっていることが考えられます。

個数密度  
(個/m<sup>3</sup>)



<PEやPPが使用されている製品例>  
包装材、バケツ、家電部品、食品容器、  
繊維、日用品等

▲ マイクロプラスチックの個数密度

## 河川ごみ実態把握調査結果のまとめ

- 河川を流下するごみの多くは、プラスチックごみで、中でもワンウェイプラスチック（使い捨てプラスチック）が50～80%程度を占めていました。
- 河川を流下するごみは、調査前の降雨の影響はあるものの、調査時期の違いを要因とした特徴的な個数の変化はみられませんでした。一方、降雨等で河川水量が増加した時等は、大量のごみが流下する様子が窺えました。
- 河川敷に散乱するごみについても、ごみが多い場所では、河川を流下するごみと同様にプラスチックごみが多くを占めていました。
- 河川周辺の陸域では、雑種地、暗い雑木林等、普段人が立ち入らない場所で、多くのごみを確認しました。通学路では、菓子包装や飲料ペットボトル・空き缶等を、小売店の周辺では、小売店由来と思われるごみを確認しました。また、歩行者が少なく、生活環境から距離があり、周りからも見えにくい道路で車からのポイ捨てと思われるごみを多く確認しました。
- 開放型の側溝（開渠）にはごみが散乱・堆積していました。
- 県内の河川でも、マイクロプラスチックが確認されました。素材は、PEやPPが多く、包装材や食品容器等の生活雑貨に由来するものが原因と考えられます。

実態把握調査の結果、散乱ごみが多く確認された場所を、『散乱ごみ発生MAP』としてまとめ、その特徴を整理しました（7、8ページ）。

なお、本調査では、「観光地」、「集客イベント」については、調査対象としておりませんでした。散乱ごみが多く発生する場所と想定されることから、本MAPに組み入れています。

## 本事例集における散乱ごみ

散乱ごみは、個人や企業が製品の購入・使用をした後に、「管理が不十分な製品の散乱（非意図的）」、「ゴミステーションからの散乱（非意図的）」、「不法投棄（意図的）」により発生し、陸域で発生したごみが河川に流入することによって海に流れ出ています\*。

本事例集は、「ゴミステーションからの散乱（非意図的）」、「ポイ捨て等の不法投棄（意図的）」により発生する散乱ごみについてアプローチごとに散乱防止対策をまとめたものです。

\*環境省「海洋ごみ発生抑制対策等事例集」より



ゴミステーションからの散乱  
(非意図的な散乱ごみ)



ポイ捨て等の不法投棄  
(意図的な散乱ごみ)

- ・ 特定の範囲
  - ・ 集客イベント
  - ・ 観光地
- (多くの人が集まる場所)

4つの対策アプローチ

1. ポイ捨てさせない
2. 不法投棄させない
3. 散乱させない
4. ごみを拾う

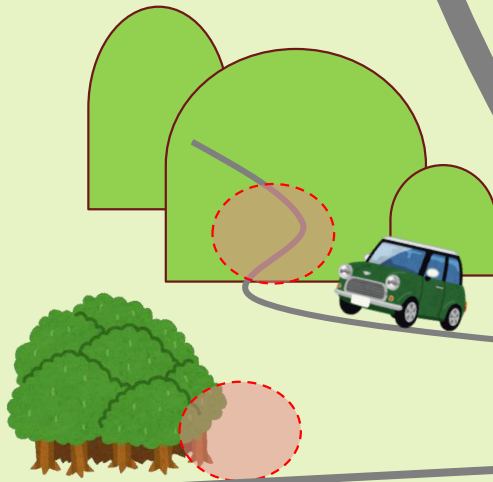
①交通量の多い道路



⑨観光地



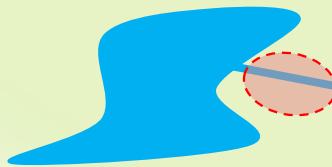
⑥人目に付きにくい場所



⑦ごみ  
ステーション



⑤水路



# 散乱ごみ発生MAP

⑧集客イベント  
(多くの人が集まる場所)



②小売店の周辺



③通学路

④河川敷

## ① 交通量の多い道路

### (1) 散乱ごみの種類

- ・レジ袋
- ・食品容器包装等のプラスチックごみ
- ・空き缶 等



### (2) 想定される散乱原因

車の交通が多い反面、歩行者が少なく、生活環境から距離があり、周りからも見えにくい場所にごみが多い。レジ袋にまとめられたごみが見られることから、車からのポイ捨てが想定される。

### (3) 考えられる対策

- ・看板 (p.15)
- ・監視カメラ (p.32)

## ② 小売店の周辺

### (1) 散乱ごみの種類

- ・小売店で販売されている食品の包装容器
- ・紙屑 (レシート等)
- ・空き缶 等



### (2) 想定される散乱原因

小売店周辺や近くの植栽等に、小売店で購入し、その場で飲食された後と思われるごみが多く見られることから、店舗利用者によるポイ捨てが想定される。

### (3) 考えられる対策

- ・看板 (p.15)
- ・清掃活動 (p.41)

### ③ 通学路

#### (1) 散乱ごみの種類

- ・ 近隣の小売店で販売されている商品の包装容器
- ・ 使い捨てプラスチックのごみ
- ・ 紙屑 等



#### (2) 想定される散乱原因

学生等の通行が多く、通学途中のポイ捨てが想定される。

#### (3) 考えられる対策

- ・ 看板 (p.15)
- ・ プランター (p.21)
- ・ 清掃活動 (p.41)

### ④ 河川敷

#### (1) 散乱ごみの種類

- ・ たばこの吸い殻
- ・ 使い捨てプラスチックのごみ
- ・ レジ袋に入ったごみ 等



#### (2) 想定される散乱原因

雑草が繁茂していることが多く、捨てられたごみが目立たくなる、夜間は照明が少ない、時間帯によっては人通りが少なくなることがある等により、通行者によるポイ捨てが多いと想定される。

#### (3) 考えられる対策

- ・ 看板 (p.15)
- ・ プランター (p.21)
- ・ 除草 (p.25)
- ・ 監視カメラ (p.32)
- ・ 清掃活動 (p.41)

## ⑤ 水路

### (1) 散乱ごみの種類

- ・ たばこの吸い殻
- ・ 劣化したプラスチック容器包装
- ・ 空き缶 等



### (2) 想定される散乱原因

構造上、風雨により他所からごみが集まりやすい場所である。  
また、清掃の手が入りにくい場所は長期間ごみが滞留することが想定される。

### (3) 考えられる対策

- ・ 看板 (p.15)
- ・ プランター (p.21)
- ・ 清掃活動 (p.41)

## ⑥ 人目に付きにくい場所

### (1) 散乱ごみの種類

- ・ 家電製品
- ・ 大型ごみ 等



### (2) 想定される散乱原因

雑木林や山間部の道路等、人の往来が少ない、人目が気にならない場所に、車等で運んできたごみが不法投棄されることが想定される。

### (3) 考えられる対策

- ・ 看板 (強い警告等) (p.31)
- ・ 監視カメラ (p.32)
- ・ 清掃活動 (p.41)

## ⑦ ごみステーション

### (1) 散乱ごみの種類

- ・生活ごみ全般



### (2) 想定される散乱原因

ごみ出し日時が守られていない、ごみネットの使用が不適切等、ごみステーションが適切に運営されていないことで、害獣被害が発生し、ごみが散乱することが想定される。

### (3) 考えられる対策

- ・看板 (p.15)
- ・害獣対策 (p.37)

## ⑧ 集客イベント

### (1) 散乱ごみの種類

- ・飲食関連のごみ
- ・レジ袋に入ったごみ
- ・たばこの吸い殻 等

### (2) 想定される散乱原因

イベント開催時の一時的に、イベント参加者が使用した飲食容器等が、ごみ捨て場が分からない等の理由によりポイ捨てされることが想定される。また、ごみ箱があった場合でも、想定以上のごみ量が発生した場合、ごみ箱から溢れたごみが散乱することが想定される。

### (3) 考えられる対策

- ・持ち帰り用ごみ袋の配布 (p.29)
- ・ごみ箱の設置 (p.39)
- ・清掃活動 (p.41)

## ⑨ 観光地

### (1) 散乱ごみの種類

- ・ 飲食関連のごみ
- ・ レジ袋に入ったごみ
- ・ たばこの吸い殻 等

### (2) 想定される散乱原因

海外からの観光客などが、ごみ捨て場が分からない等の理由により、持っているごみをポイ捨てすることが想定される。また、ごみ箱があった場合でも、想定以上のごみ量が発生した場合、ごみ箱から溢れたごみが散乱することが想定される。

### (3) 考えられる対策

- ・ 看板 (p.15)
- ・ 持ち帰り用ごみ袋の配布 (p.29)
- ・ ごみ箱の設置 (p.39)
- ・ 清掃活動 (p.41)

散乱ごみへの4つのアプローチ（ポイ捨てさせない、不法投棄させない、散乱させない、ごみを拾う）と、環境教育・啓発について、対策のポイントをまとめています。

アプローチⅠ	ポイ捨てさせない
対策	Ⅰ－① 看板 Ⅰ－② プランター Ⅰ－③ 除草 Ⅰ－④ 持ち帰り用ごみ袋の配布
アプローチⅡ	不法投棄させない
対策	Ⅱ－① 看板（強い警告等） Ⅱ－② 監視カメラ
アプローチⅢ	散乱させない
対策	Ⅲ－① 害獣対策 Ⅲ－② ごみ箱の設置
アプローチⅣ	ごみを拾う
対策	Ⅳ－① 清掃活動
その他の対策	環境教育・啓発

# アプローチⅠ ポイ捨てさせない

## 対策Ⅰ－① 看板

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路

小売店の周辺

通学路

河川敷

水路

人目に付きにくい場所

ごみステーション

集客イベント

観光地

### □ 対策の特徴

看板を設置することで、『視覚的な注意喚起』『心理的プレッシャー』『法的な抑止力』『地域の環境意識の向上』といった効果が期待できます。看板のデザインやメッセージを工夫することで、さらに効果を高めることができます。例えば、インパクトのあるイラストを使って目立たせる、地域のキャラクターやその土地の特徴を取り入れた親しみやすいデザインにすることなどにより、より多くの人にメッセージが伝わりやすくなります。

### □ ポイント

#### ☑ 文字は大きく、短いメッセージにする

（自転車や車両に乗った人でも、看板を見た瞬間に内容が理解できるようにします。）

#### ☑ 反射材やライトを活用する

（暗い場所や夜間でも、看板の内容が認識できるようにします。）

#### ☑ ナッジの活用等により行動変容を促す仕掛けを加える

（他者の存在を感じるよう目のイラストを入れる等、視線を意識させるデザインにしたり、メッセージを「ポイ捨て禁止」という直接的なものではなく、心理的にポイ捨て抑制を訴えかけるものにする等、人の意思決定に自然に介入するアプローチであるナッジの活用も有効です（p.17参照）。



▲ 看板にナッジを活用した例

アプローチⅠ  
ポイ捨てさせない

## ☑ 多言語化やピクトグラムを活用する

〔 国籍等によらず、誰もがメッセージを受け取れるよう工夫します。 〕



日本語：食べ歩き禁止  
英語：No eating while walking.  
韓国語：걷는 동안 먹지 마십시오.  
中国語：走路时禁止吃东西  
(簡体字)



日本語：リサイクルを心がけよう  
英語：Recycling recommended.  
韓国語：재활용 권장.  
中国語：建议回收  
(簡体字)

### ▲ ピクトグラム \* + 多言語表記の例

\* 出典「持続可能な観光の推進に向けて」(観光庁) <https://www.mlit.go.jp/kankocho/responsible-traveler/>

※上記ピクトグラムの他にも、観光庁のホームページや(公財)交通エコロジー・モビリティ財団(略称:交通エコモ財団)のホームページで無料で使用できるピクトグラムが公開されています。

○観光庁HP <https://www.mlit.go.jp/kankocho/responsible-traveler/>

○(公財)交通エコモ財団HP [https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/picto\\_top2021.html](https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/picto_top2021.html)

## ☑ 設置場所の雰囲気にも馴染むデザインにする

〔 観光地や景観保全区域に設置する場合、周辺の環境と比べて違和感のないデザインが求められる場合があります。 〕



▲ 高札型のマナー啓発看板\*

\* 出典「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に関する関係省庁対策会議(第1回)資料」(観光庁)  
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/810002897.pdf>

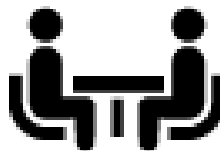
## Column



### 看板のデザイン

看板のデザインを検討する際は、「誰を対象とするか」「どんなごみを対象とするか」を明確にしておくことが重要です。デザイン会社に委託する場合は、設置場所やターゲット、期待する効果などを含めた完成イメージをお互いに共有しながら検討を進めましょう。

- ・対象は外国人を含む観光客
- ・特にペットボトルのポイ捨てを減らしたい
- ・ナッジの考え方を取り入れたい



発注者      デザイナー

- ・英語以外の標記は必要?
- ・夜でも見えるようにライトをつける?
- ・イラストメインにする? 文字メインにする?

また、近年では、生成AIの活用も可能になりました。AIを使って、イメージ案を複数作成し、そこから実際に作成する看板に落とし込んでいくことも有効です。



生成AIで作成した啓発看板の例



## ナッジとは？

ナッジ (nudge) とは「人々の選択肢を奪うことなく、環境を整えることで、本人や社会にとって望ましい行動をするようにそっと後押しする手法」と定義されています。

シカゴ大学のリチャード・セイラー教授が提唱したアイデアで、人々が自然に行動を変えるように導く方法として知られています。近年、この考え方が注目を浴び、政府や企業などが新しい政策手法として注目しています。

ナッジの具体的な手法としては、英国のBehavioural Insights Teams (BIT) が開発した「EAST (イースト)」が良く知られています。EASTは「簡単に (Easy)」、「印象的に (Attractive)」、「社会的に (Social)」、「タイムリーに (Timely)」の頭文字を取ったもので、ナッジの要素が4つの観点と11のポイントに整理されています。

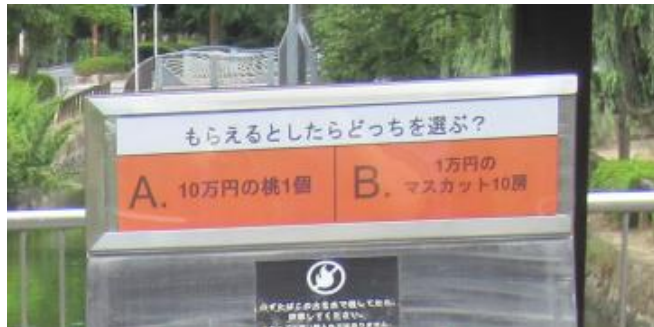
<b>Easy (簡単に)</b>	情報や手続きをシンプルにする
<b>Attractive (印象的に)</b>	メッセージには相手の注意を引くような要素を入れて関心を高める
<b>Social (社会的に)</b>	社会規範を強調する (価値観、行動、期待)
<b>Timely (タイムリーに)</b>	メッセージは個人が行動を変える可能性が最も高いタイミングで提示する

例えば、多くの人は、たばこのポイ捨ては『よくないこと』とわかっていますが、「みんなやっているから」「このくらい大したことないだろう」という認知バイアスに影響されると、ついポイ捨てをしてしまう人も多くいます。

岡山県の高校では、総合学習の活動の一環として、街中に「投票式の吸い殻入れ」を設置しました。これは『この灰皿に捨てることに意味がある』といった認知バイアスをうまく刺激するメッセージを活用したナッジであると考えられます。また、吸い殻の数が外から見えるよう可視化していることで「みんながきちんと灰皿に捨てている」という同調心理がはたらき、より灰皿に捨てやすくなります。

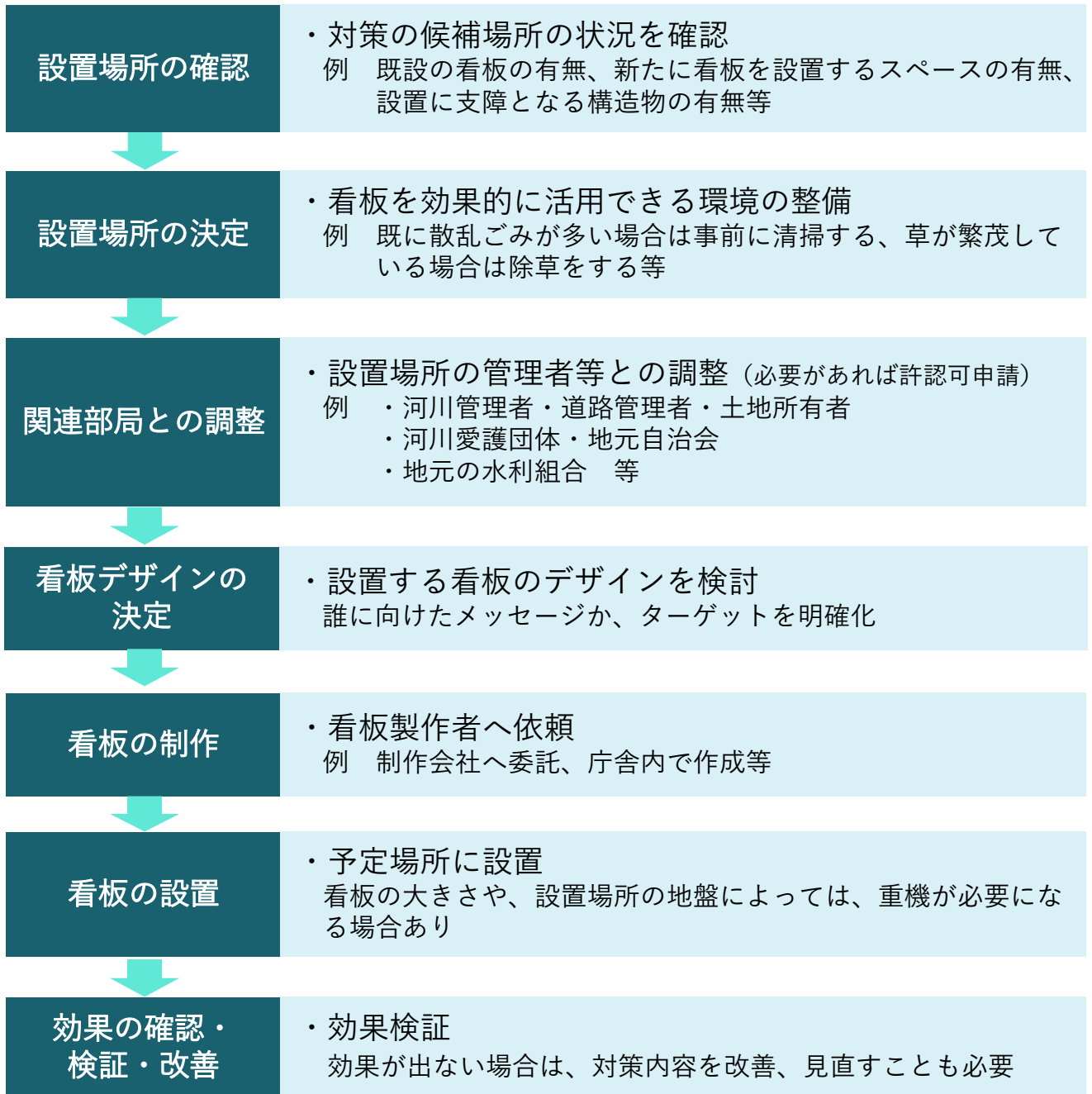
実際、設置前と設置後に、吸い殻入れ周辺の吸い殻のポイ捨て状況を調査したところ、ポイ捨て状況が改善したとの結果も出ています。

『ポイ捨てをやめよう』と言われても、すぐに効果が現れることは難しいですが、ナッジを使うことで望ましい行動に踏み出しやすくさせた好事例と言えます。



▲ 投票式の吸い殻入れ

## □ 対策フロー



### 資料編



No.2 若手職員による国道1号谷稲葉ICゴミのポイ捨て対策について

No.3 ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」

No.4 行動経済学のナッジを使ったカラス対策

No.6 プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言

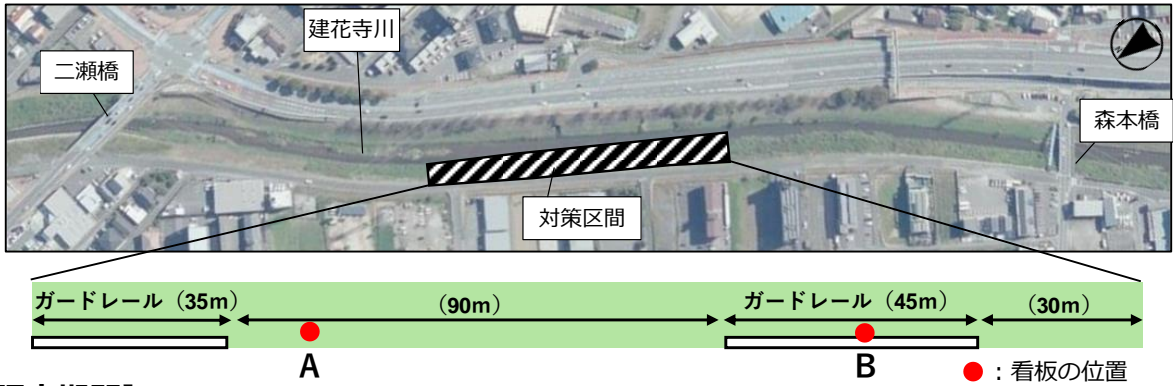
# 実証試験

## ◆看板設置による発生抑制対策効果の検証

看板の設置による発生抑制対策効果を検証するために実証試験を行いました。

### 【調査地点】

飯塚市内を流れる河川（建花寺川）の森本橋-二瀬橋間の河川敷（左岸側）200m区間（下図における“対策区間”）



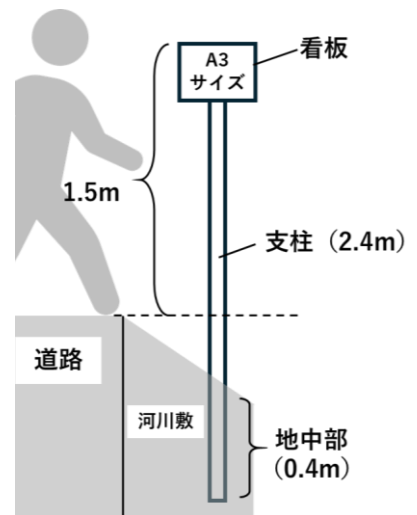
### 【調査期間】

令和6年12月6日～12月26日 の21日間（3週間）

※上記期間以外にも、調査地点にて何も対策を施さない「ベースライン調査」の他、その他実証試験を実施（いずれも調査期間は3週間）

### 【調査方法】

- 調査開始前日に、看板2基を設置。位置は対策区間を二分した各区間の中央とした。（調査地点は除草された状態を維持）
- 看板はそれぞれ別のデザインとし、“ポイ捨て禁止”などの直接的な文言ではなく、個人の社会規範（美観意識）に訴える内容や他者の目を想起させる内容を意識して作成
- 概ね3日に1回の頻度で現地調査を実施し、目視によりごみの種別や個数を確認



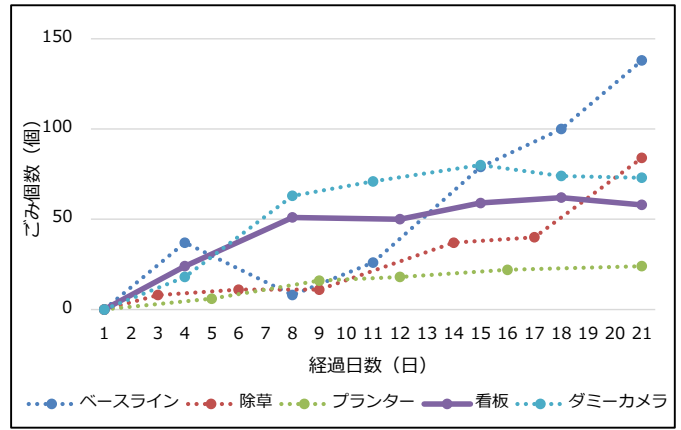
各看板のデザインと設置状況

アプローチ  
ポイ捨てさせない

## 【調査結果】

看板の設置による発生抑制対策効果について、今回の検証では右のような結果が得られました。

同地点で実施したベースライン調査、及びその他の実証試験（除草、プランター設置及びダミーカメラ設置）の結果と比較しています。



- 調査最終日のごみの個数を比較すると、看板設置時はベースライン調査時よりもごみの個数が減少（138個→58個）しました。なお、ごみ個数の内訳は、看板A周辺が42個、看板B周辺が16個でした。
- 今回の実証試験で効果検証を行った4つの対策の中では、プランターの次に高い発生抑制効果がみられました。なお、調査は調査地点が除草された状態で実施したため、効果は除草によるものも含まれます。

## 《実施時の気づき》

一口に看板と言っても、内容、看板の素材、設置方法などで発揮される効果が変わるものと考えられます。

- 対象者によってデザインや配置を変える（車両向けの看板の場合、文字やイラストを大きく配置する、運転手の目線に入りやすい場所、高さに設置する 等）
- 景色に溶け込んでしまう配色は避ける
- 反射性の素材を使用する、街灯の周辺に設置するなど、夜間での視認性の向上 等

禁止事項を正面に出した内容は、時に反作用を生じることが知られています（“ポイ捨て禁止”などの標語の設置が逆に投棄行動に繋がってしまう 等）。

なお、調査地点の既存看板（右図）については、ベースライン調査時を除き、撤去した上で調査を実施しました。



調査地点の既存看板  
(調査期間中は現地から撤去)

## 調査時のコストなど

看板製作：1基当たり228,000円（デザイン、製作費用を委託）

作業工数：看板設置用の穴掘り（要穴掘り用スコップ）及び看板の設置に作業員2名で1時間程度

# 対策Ⅰ-② プランター

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路

小売店の周辺

通学路

河川敷

水路

人目に付きにくい場所

ごみステーション

集客イベント

観光地

## □ 対策の特徴

プランターを設置することで、『視覚的な障壁』や『環境美化』等の効果が期待できます。また、プランターの維持管理を地域と連携して行うことで、『地域コミュニティへの所属意識の醸成』にも繋がります。

プランターを設置する場合は、高さや設置間隔のほか、地域性にあったメッセージを貼付する等の工夫を取り入れることで、多くの人に馴染みやすい啓発になると考えられます。

## □ ポイント

### ☑ 車や歩行者が認識できるプランターを選定する

車や遠くの歩行者も認識できるように、高さのあるプランターを選定したり、専用のスタンドを取り付ける等で、人目につくように工夫します。



▲ スタンドを取り付けたプランター

### ☑ 管理者の存在を示す

その場所を管理している人がいることを知らせることは、ポイ捨て行為の抑制に繋がります。看板等を併設し、プランターや植栽が手入れされていることを示すことが考えられます。



▲ 横断幕を掲示して管理者の存在を示した例

### ☑ 地域住民や学生の関与を示す

地域で守っている場所であることを示すことで、地域コミュニティへの所属意識の醸成にも繋がります。住民や学生に、標語、メッセージなどを考えてもらい、プランターに併設することも有効です。



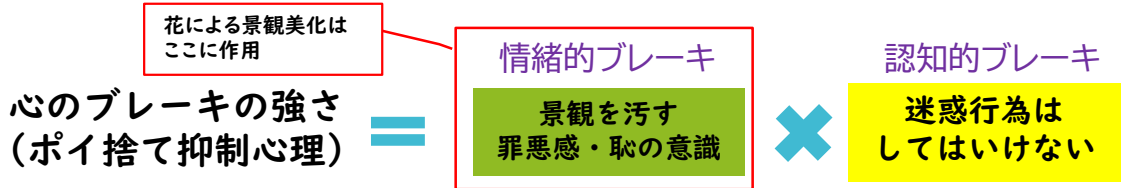
▲ メッセージ付のプランター



## 花によるポイ捨て抑制効果とは？

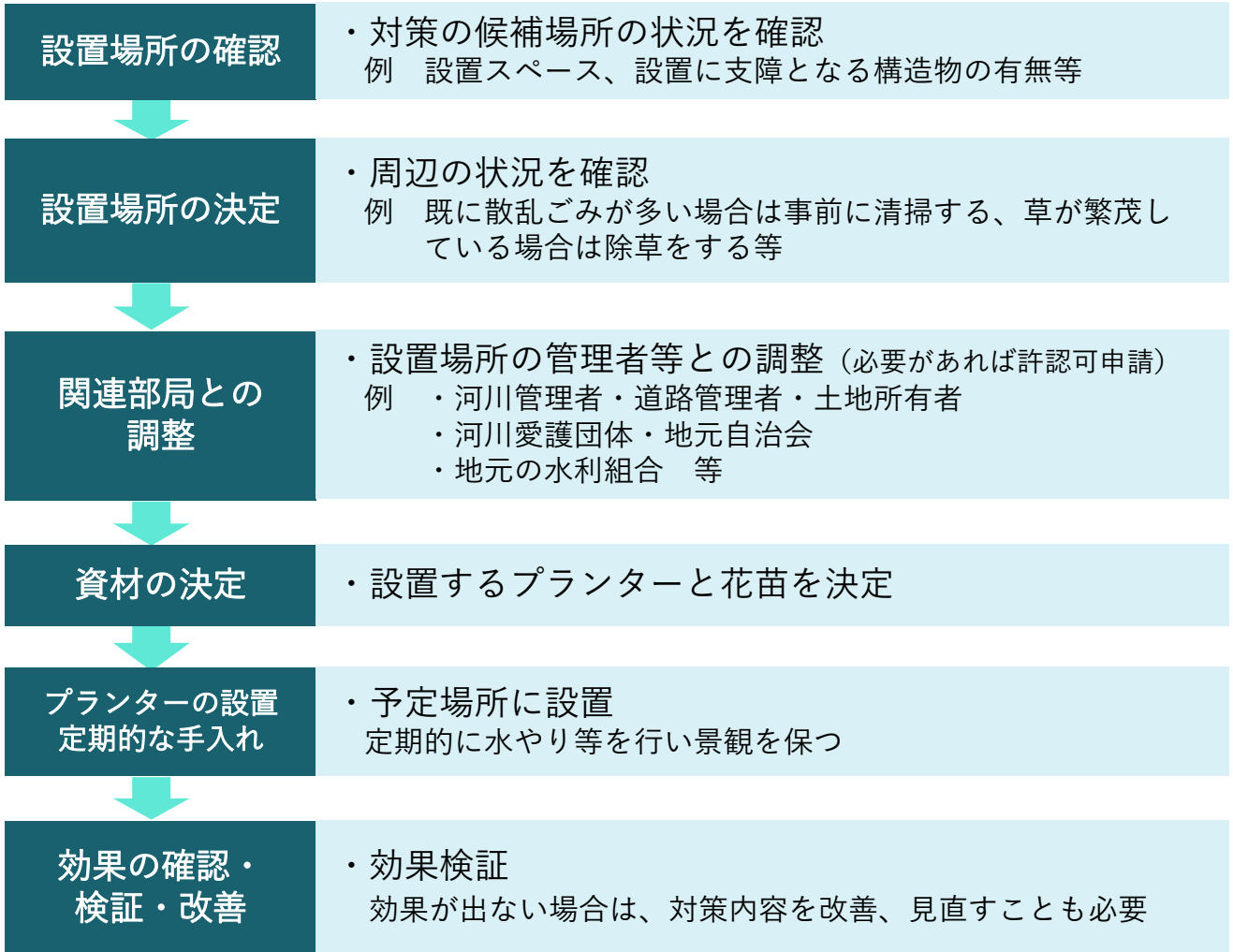
ポイ捨て抑制心理の構造の1つに「ダブルブレーキ仮説\*」モデルが提唱されています。これは、罪悪感やその行為の恥ずかしさを惹起させる「**情緒的ブレーキ**」と、違反行為をしてはいけないという「**認知的ブレーキ (道徳意識+努力志向的価値観)**」が掛け合わさって、ポイ捨て抑制心理が働くことが特徴となっています。

花を植えるなどで周囲の景観を美化しておくこと、そこでポイ捨て行為が、綺麗な場所を汚してしまうことを連想させ、**情緒的ブレーキ**を強く踏ませることに繋がります。これにより、ポイ捨て抑制心理がより強く働くことが推測されます。



出典「河畔におけるごみのポイ捨て対策」(廃棄物資源循環学会誌、Vol.29, No.4, 2018)

## □ 対策フロー



### 資料編



No.11 まちかど花壇

No.12 街角花いっぱいボランティアグループ

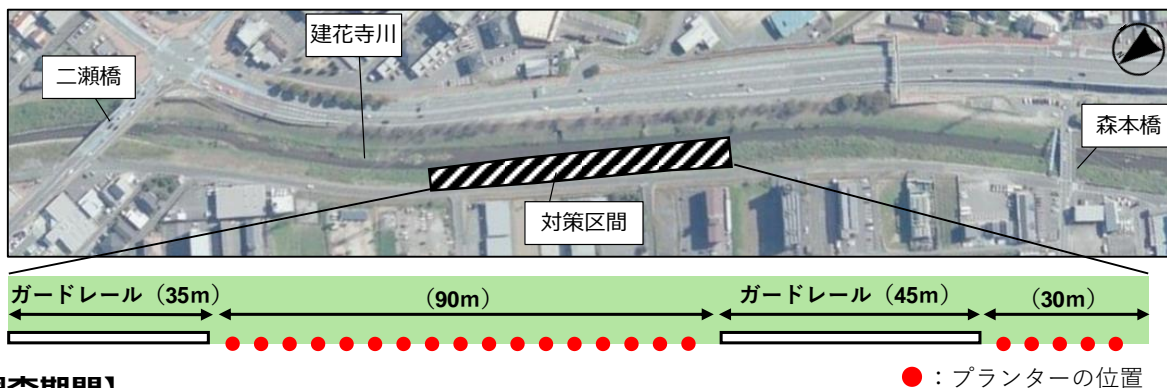
# 実証試験

## ◆プランターの設置による発生抑制対策効果の検証

花苗を植栽したプランターの設置によるごみ発生抑制効果を検証するために実証試験を行いました。

### 【調査地点】

飯塚市内を流れる河川（建花寺川）の、森本橋-二瀬橋間の河川敷（左岸側）200m区間（下図における“対策区間”）



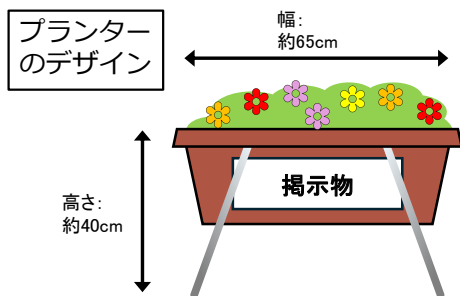
### 【調査期間】

令和6年11月14日～12月4日 の21日間（3週間）

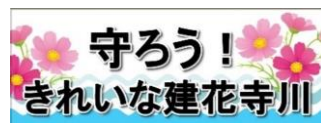
※上記期間以外にも、調査地点にて何も対策を施さない「ベースライン調査」の他、その他実証試験を実施（いずれも調査期間は3週間）

### 【調査方法】

- 調査開始前日に、花苗を植栽したプランター22基を、対策区間のガードレールの無い部分に等間隔に配置（調査地点は除草された状態を維持）
- プランターの視認性を高めるためスタンドを併用。また、啓発用のメッセージを記載した掲示物を貼付
- 概ね3日に1回の頻度で現地調査を実施し、目視によりごみの種別や個数を確認

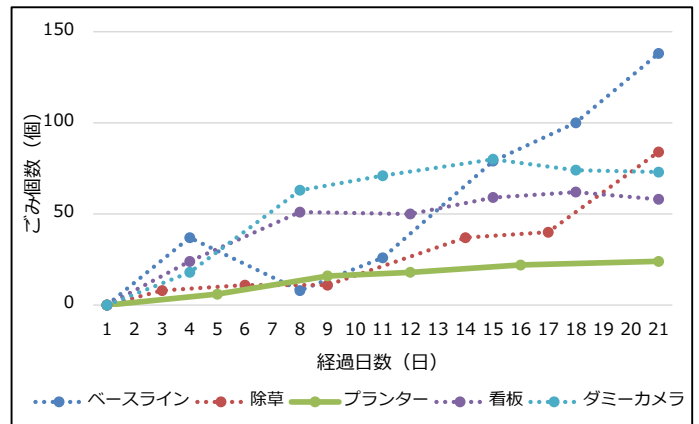


掲示物  
(例)



## 【調査結果】

プランター設置による発生抑制対策効果について、今回の検証では右のような結果が得られました。



- 調査最終日のごみの個数を比較すると、プランター設置時はベースライン調査時よりもごみの個数が大きく減少（138個→24個）しました。
- 今回の実証試験で効果検証を行った4つの対策の中では、最も高い発生抑制効果がみられました。なお、調査は調査地点が除草された状態で実施したため、効果は除草によるものも含まれます。

## 《実施時の気づき》

- 左下の写真のように、未除草エリアにプランターを設置した場合、その効果は薄れてしまう可能性があります。プランターや植栽による対策を実施する場合、事前の除草、設置中の適切な管理を行うことが望まれます。
- 今回の調査は3週間と短い期間でしたが、長期間の設置を想定する場合、定期的な管理や植栽する植物（花の場合は花期も）等を検討する必要があります。



## 調査時のコストなど

準備費用：プランター、スタンド、花苗、培養土、鉢底石、掲示物、杭など、22基で合計80,609円（1基あたり3,664円）

植栽作業：プランターへの植栽及びプランター設置に作業員3名で半日程度

その他：調査期間中、概ね3日ごとに水やりを実施

22基の水やりに1名で30分程度（降雨の状況により調整）

# 対策Ⅰ－③ 除草

## 散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

## □ 対策の特徴

雑草が繁茂していると、ポイ捨てされたごみが見えにくくなることがあります。ごみが見えにくいと、拾う機会が失われ、長時間そこにとどまり続けることが懸念されます。また、捨てられたごみが草の中に隠れることで、ポイ捨ての心理的ハードルが下がり、よりポイ捨てされやすい場所となります。

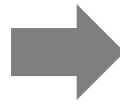
## □ ポイント

### ☑ 除草前にごみを拾う

機械を使って除草すると、そこにあるごみを破断してしまいます。破断したごみは回収が難しくなるため、事前にごみを回収しておくことが望まれます。



▲ 除草前のごみの散乱状況



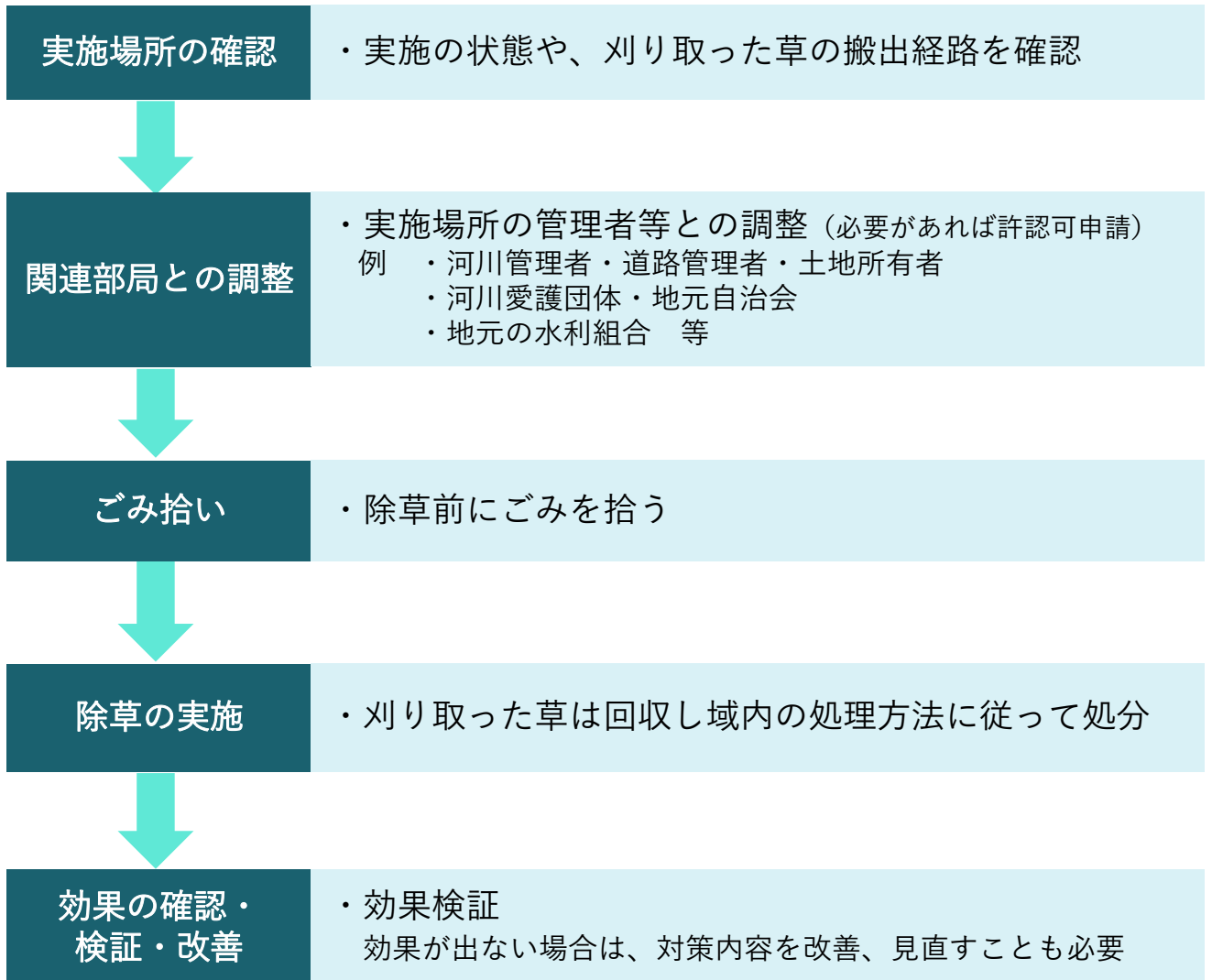
事前にごみを回収せず  
に除草実施




▲ 機械で破断したごみ

アプローチ  
ポイ捨てさせない

## □ 対策フロー



	No.2	若手職員による国道1号谷稻葉ICゴミのポイ捨て対策について
	No.14	おねがい 用水や川に刈草を流さないで！
	No.15	河川ごみ等回収促進事業（おかやま河川ごみ一掃大作戦）

# 実証試験

## ◆除草による発生抑制対策効果の検証

河川敷の除草によるごみ発生抑制効果を検証するために実証試験を行いました。

### 【調査地点】

飯塚市内を流れる河川（建花寺川）の森本橋川-二瀬橋川間の河川敷（左岸側）200m区間（下図における“対策区間”）



### 【調査期間】

令和6年10月23日～11月12日 の21日間（3週間）

※上記期間以外にも、調査地点にて何も対策を施さない「ベースライン調査」の他、その他実証試験を実施（いずれも調査期間は3週間）

### 【調査方法】

- 調査開始の前日までに、対策区間全域の雑草（樹木を含む）を伐採し、地面から5cm程度の草丈で刈り揃え
- 刈草などは、全量を現地から撤去
- 調査期間中、概ね3日に1回のペースで現地調査を実施。目視によりごみの種別や個数を確認

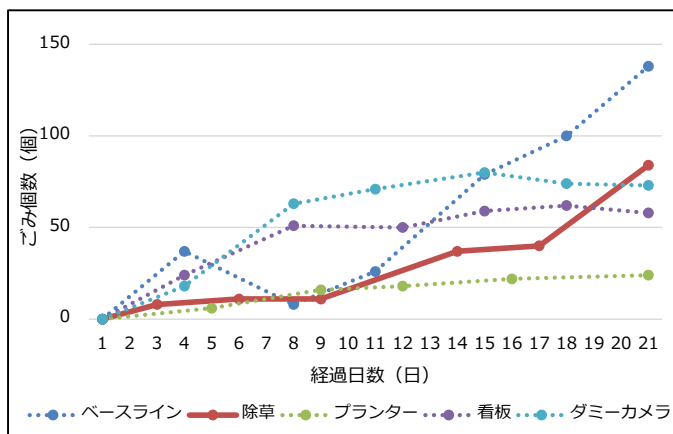


アプローチ  
ポイ捨てさせない

## 【調査結果】

除草による発生抑制対策効果について、今回の検証では以下のような結果が得られました。

同地点で実施したベースライン調査（前述）、及びその他対策メニューの結果と並べています。



- 調査最終日におけるごみの個数で比較すると、除草時ではベースライン調査時よりもごみの個数の減少（138個→84個）しました。
- 除草による景観の改善等の効果に加えて、適切な発生抑制対策を実施すると、より良い効果が期待できると考えられます。

## 「実施時の気づき」

- 調査時、調査地点周辺にて別の除草作業が実施されており、伐採機により破碎され細かくなったごみ、袋が破られ中身が散乱したごみが多く残されてしまっていました。河川敷の除草の際には、可能な限り事前に、ごみ拾いを併せて実施することが重要です。



## 調査時のコストなど

除草範囲：約200m×約15m（全面に渡って立木や丈の長い草が繁茂している状態）

作業内容：除草、樹木伐採、刈草撤去、除草範囲の散乱ごみの回収

作業工数：作業員は1日あたり5～6名で約5日間。草刈り機のほか、樹木伐採用のチェーンソーを使用。作業コスト：実証試験では外部機関（費用は545,300円）。

# 対策Ⅰ－④ 持ち帰り用ごみ袋の配布

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

## □ 対策の特徴

外出先で発生したごみは自宅に持ち帰ることが基本です。しかし、特に飲食系のごみは、ごみ箱等が近くにない場合、ごみとなった時点でその場でポイ捨てされてしまうことが多くあります。

例えば、外出先でもごみを持ち帰ってもらえるよう、来場者に向けて専用のごみ袋を配布するなどの工夫をすることで、散乱ごみの発生を抑制できると考えられます。

## □ ポイント

### ☑ ごみ袋を配布し、近隣店舗で回収する

観光地や集客イベントで発生するごみの特徴として、飲食物の包装や容器が多く含まれます。これらのごみは、使用が終わると家庭まで持ち帰られにくいいため、近くで適切に処理ができることが重要です。実際に、観光地において、観光客専用のごみ袋を販売し、集めたごみについても店舗で引き取る取組を行っている例があります。



観光などで訪れる方々のごみを受け入れるため「観光客専用ごみ袋」を販売



ごみが入ったごみ袋はステッカーが貼られた店舗等において引き取りを実施

▲店舗でのごみ袋配布・回収の例（北海道羅臼町）

## Column



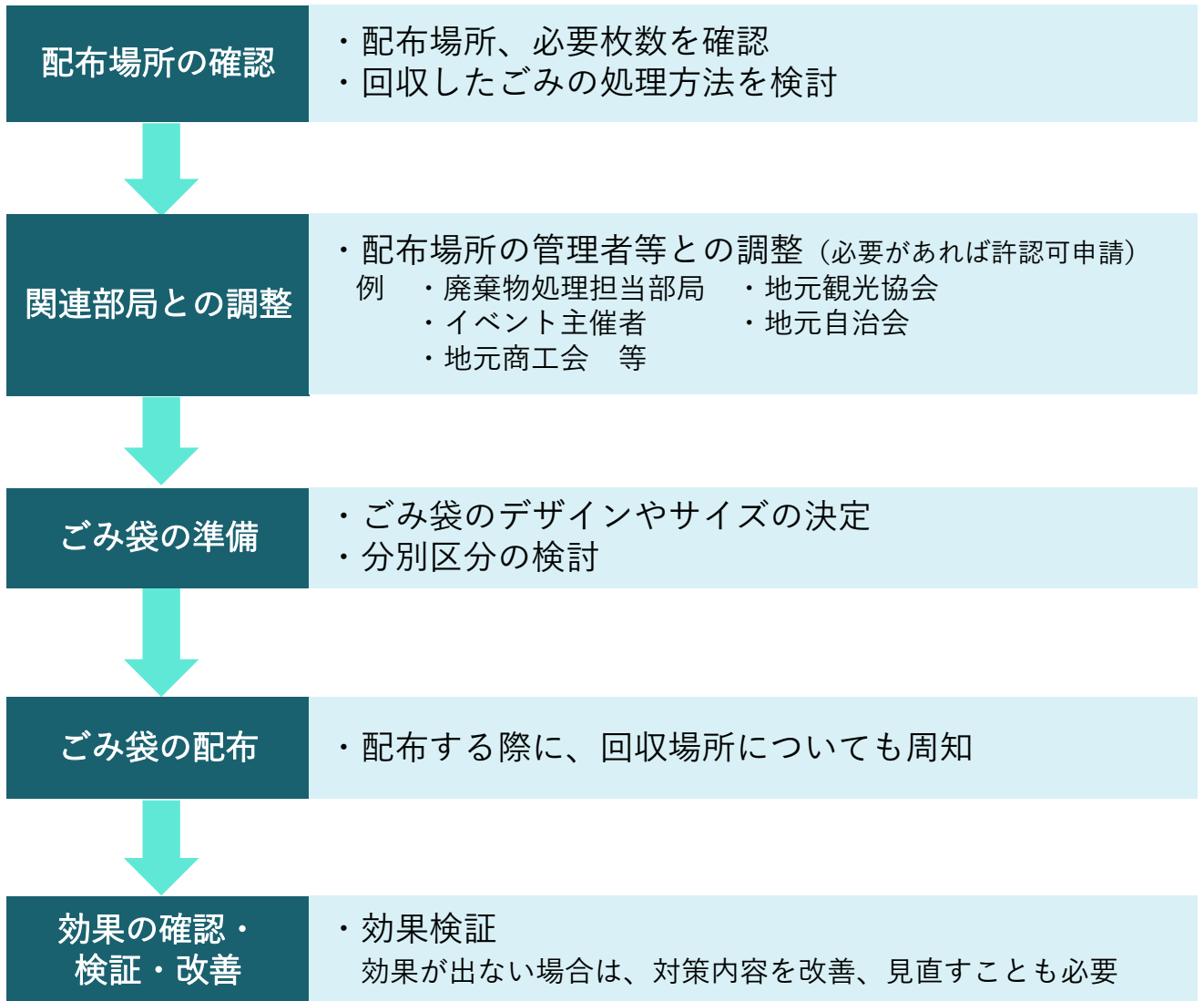
### ガベッジバッグ

「ガベッジバッグ」とは、元々登山中に出たごみを適切に持ち帰るためのアイテムです。防水性と気密性に優れた素材を使用しているため、ごみの水分や臭いが外部に漏れ出るのを効果的に防ぐことができます。

外出先のごみ袋にも、機能性やデザインや持たせることで、より持ち歩きに適した性能や、繰り返し使用できるものとして活用が期待されます。

アプローチ  
ポイ捨てさせない

## □ 対策フロー



### 資料編



No.16 観光客専用ごみ袋

# アプローチⅡ 不法投棄させない

## 対策Ⅱ－① 看板（強い警告等）

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路

小売店の周辺

通学路

河川敷

水路

人目に付きにくい場所

ごみステーション

集客イベント

観光地

### □ 対策の特徴

看板を設置することで『視覚的な注意喚起』『心理的プレッシャー』『法的な抑止力』『地域の環境意識の向上』といった効果が期待できます。

看板のデザインやメッセージを工夫することで、さらに効果を高めることができます。恒常的に不法投棄が続いている場所など、違法性が高い場所では、例えば、罰則が目立つよう文字の配色を工夫する、警察署名を併記する、監視されていることを意識させる内容にすること等が考えられます。

### □ ポイント

#### ☑ 罰則や監視中であることを強調する

「不法投棄禁止」のように禁止事項のみを示した看板では投棄の抑制効果は薄いと考えられます。看板に、罰則や通報先となる警察署を明示することで、不法投棄の犯罪性を強く意識づけることができます。

また、監視カメラ設置や定期的なパトロール実施を示すことでも、投棄を思いとどまらせる効果が期待できます。なお、警察署名を記載する際は、事前に手続きが必要な場合がありますので、最寄りの警察署の確認が必要です。



▲看板の例

### □ 対策フロー

対策Ⅰ－①（18ページ）を参照してください。

#### 資料編



No.2 若手職員による国道1号谷稲葉ICゴミのポイ捨て対策について

No.3 ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」

## 対策Ⅱ－② 監視カメラ

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路

小売店の周辺

通学路

河川敷

水路

人目に付きにくい場所

ごみステーション

集客イベント

観光地

### □ 対策の特徴

監視カメラの設置によって、人々は自分の行動が記録される可能性を意識します。この「見られている」という意識が、不法投棄などの不正行為を抑制する効果があります。また、万が一不法投棄が発生した場合でも、監視カメラの映像が証拠として残ります。これにより、犯人の特定や再発防止策の検討が容易になります。

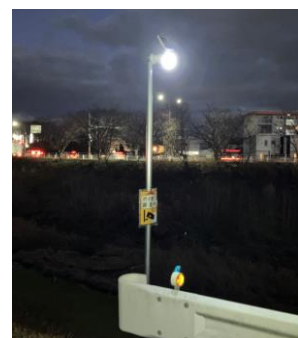
### □ ポイント

#### ☑ 監視カメラの存在を周囲に知らせる

監視カメラを設置するだけでは、十分な効果を得ることはできません。監視されている意識を持たせるために、監視カメラがある旨の警告看板を掲示することが有効です。

#### ☑ ライトを併設する

夜間でも監視カメラの存在を認識できるよう、ライトを併設します。また、監視カメラの設置が難しい場合は、センサーライト等を設置することによっても、周囲に見られている意識を起こさせる効果が期待できます。



▲監視カメラに取り付けたライト

#### ☑ ダミーカメラを活用する

電源の確保が難しい場所では、代わりにダミーカメラを設置することも有効です。カメラの存在自体が、不法投棄の抑止に繋がります。

## Column



### 監視カメラ設置の留意点

- 赤外線暗視型の防犯カメラを設置する場合、赤外線が届く距離は、屋外カメラでも25～30m、一般的なもので15m程度です。
- 実際に撮影できる範囲は、「最大照射距離表示の半分程度」と考えて設置場所を検討してください。
- 一方向のみに設置していると、センサーが反応した時には通り過ぎている場合があるため、反対向きにももう1台設置すると、撮影成功率の向上が見込まれます。
- バッテリー消費や記録容量の削減のため、風で揺れる草木等、対象以外で動くものなるべく写り込まないように設置します。
- 民家の窓、公衆トイレ付近等、対象者以外が写りこまないよう、場所や角度に配慮します。
- 盗難やいたずら防止のため、手が届きにくい高さに設置します。

## Column



### 福岡県防犯カメラの設置及び運用に関するガイドライン

福岡県では、防犯カメラの有用性とプライバシー保護との調和を図り、防犯カメラの設置者がカメラを適切かつ効果的に活用できるよう、ガイドラインを策定しています。

ガイドラインには、撮影範囲や管理責任者の指定等、設置にあたって配慮事項がまとめられています。

設置者等には、次のような責務があります。

#### 設置者等の責務

- ①撮影された画像の適正な管理
- ②撮影された画像の提供の制限
- ③苦情への対応
- ④その他防犯カメラの適正な設置及び運用に関し、必要な措置を講ずること。

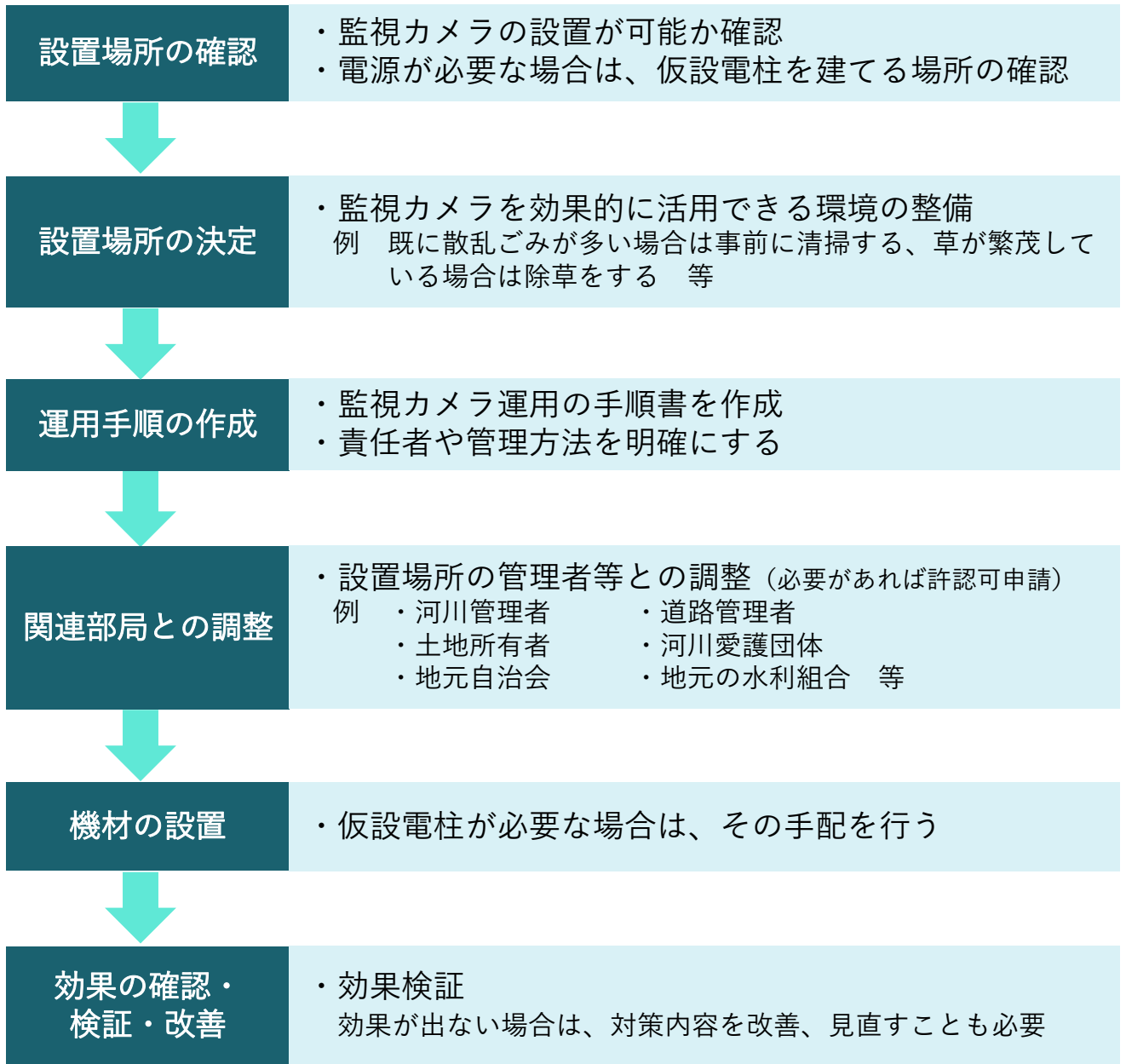
#### 福岡県防犯カメラの設置及び運用に関するガイドライン




福岡県

出典 <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/gyosei-shiryō/cameraguideline.html>

## □ 対策フロー



<b>資料集</b> 	No.2	若手職員による国道1号谷稲葉ICゴミのポイ捨て対策について
	No.3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」
	No.5	茨城県内における不法投棄対策
	No.10	廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定の締結

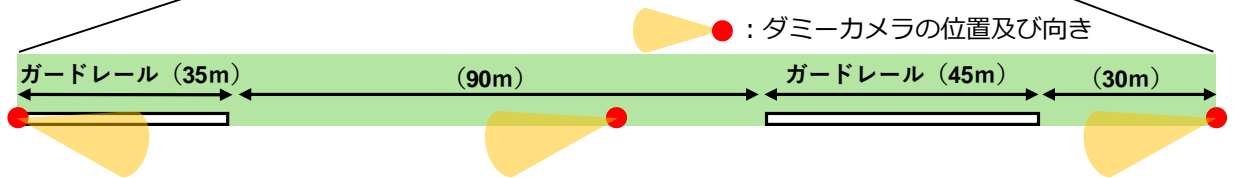
# 実証試験

## ◆ダミーカメラの設置による発生抑制対策効果の検証

ダミーカメラの設置によるごみ発生抑制効果を検証するために実証試験を行いました。

### 【調査地点】

飯塚市内を流れる河川（建花寺川）の森本橋川-二瀬橋川間の河川敷（左岸側）200m区間（下図における“対策区間”）



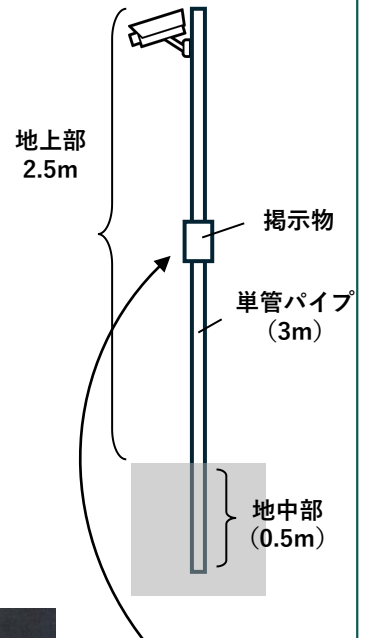
### 【調査期間】

令和7年1月7日～1月27日 の21日間（3週間）

※上記期間以外にも、調査地点にて対照として対策を実施しない「ベースライン調査」の他、その他対策メニューによる調査を実施（いずれも調査期間は3週間）

### 【調査方法】

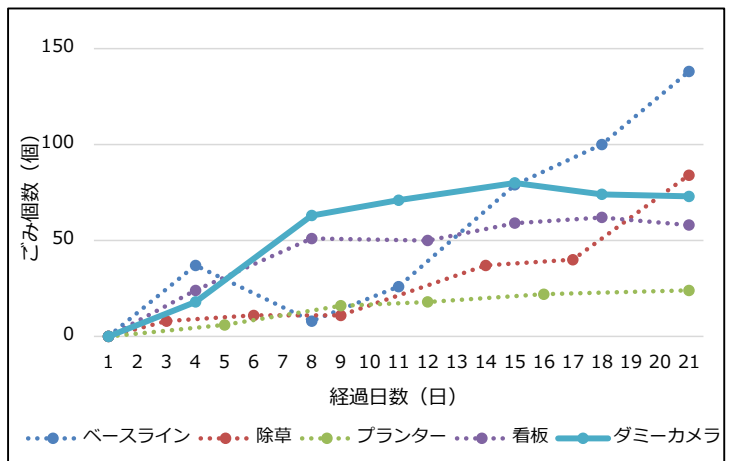
- 調査開始前日に、ダミーカメラ（撮影・録画機能無し、夜間に通行があった場合センサ感知し点灯するもの）3基を、対策区間の両端及び中央に設置（調査地点は除草された状態を維持）
- ダミーカメラ単体では景色に溶け込んで気づかれない可能性があるため、目立つ色の掲示物を作成し、設置用のポールに貼付
- 調査期間中、概ね3日に1回のペースで現地調査を実施。目視によりごみの種別や個数を確認



アプローチII  
不法投棄させない

## 【調査結果】

ダミーカメラの設置による発生抑制対策効果について、今回の検証では右のような結果が得られました。



- 調査最終日のごみの個数を比較すると、ダミーカメラ設置時はベースライン調査時よりもごみの個数が減少（138個→73個）しました。
- ダミーカメラの設置により、一定の発生抑制効果が確認できました。なお、調査は調査地点が除草された状態で実施したため、効果は除草によるものも含まれます。

## 「実施時の気づき」

- 調査期間中には、ダミーカメラの至近距離（ダミーカメラが向いていない方向）にてまとまったごみの投棄が確認されることがありました。ダミーカメラには監視効果による発生抑制効果の反面、効果が期待できる範囲に限られる、ダミーだと認識されると効果が期待できないという性質が付随します。
- 掲示物を併用する場合、反射性の材料を使用した方が、夜間の視認性向上に繋がります（今回の試行では、紙面印刷したものをラミネート加工して使用したため、夜間の視認性が不十分だった）。



調査期間（夜間）の様子



ダミーカメラの至近距離（カメラの向きと反対側）に投棄されたごみ

## 調査時のコストなど

準備費用：ダミーカメラ、単管パイプ、掲示物として20,425円（1基あたり6,808円）  
作業工数：ダミーカメラ設置用の穴掘り（要穴掘り用スコップ）及びダミーカメラの設置に作業員2名で1時間程度

# アプローチⅢ 散乱させない

## 対策Ⅲ－① 害獣対策

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路

小売店の周辺

通学路

河川敷

水路

人目に付きにくい場所

ごみステーション

集客イベント

観光地

### □ 対策の特徴

ごみステーションにおいて、地域で定められた日時以外にごみ出しがなされたり、防鳥ネットの使用が不十分な場合などに、猫やカラス等がごみ袋をつついて、袋の中のごみを周囲に散乱させてしまうことがあります。

防鳥ネットの適切な使用や、ごみステーションの適切な管理・運営を行うことにより、害獣による散乱ごみの流出を防ぐことができると考えられます。

### □ ポイント

#### ☑ ごみステーションの適正な利用を徹底する

地域で定められた持ち込み日時等のルールが遵守されるよう、利用者に対し周知を行い、適切に管理します。

#### ☑ 防鳥ネットの使用

ごみステーションが路上型や開放型の場合は防鳥ネットを使用します。その際、ごみが溢れないよう、地区で排出されるごみ量より少し余裕を持たせたサイズのネットを使うことが望ましいです。使用の際は、ごみのはみ出さないよう適切なかけ方を徹底します。

また、強風、猫やカラス等にめくられないよう、端部に重りをつけるなどの工夫も有効です。ネットの形状についても袋状やボックス型等があるので、設置場所に応じて適切なものを選定します。



▲袋状にしたネット



▲マチを持たせたネット\*



▲ボックス型のネット\*

\* 出典 「海洋ごみ発生抑制対策等事例集」 (環境省) <https://www.env.go.jp/content/900543328.pdf>

#### ☑ ごみ袋の中身が見えないようにする

カラスは目で食べ物を識別するといわれています。新聞紙で中身を隠す等、外側からごみ袋の中身が判別できないよう工夫することも有効です。

## Column



### ごみネットの使い方

ごみネットの効果的な使い方を紹介している自治体もあります。例えば、北九州市では、市HPにおいて、袋タイプのネットの作り方・使用例を画像を交えて紹介しています。

○袋タイプの防鳥ネットの作り方！

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000981212.pdf>



▲平面のネットを袋状に加工

## Column



### カラスとごみ

私たちがカラスとして日常的に認識しているのは「ハシブトガラス」と「ハシボソガラス」の2種です。特に「ハシブトガラス」は都会に生息し、ごみ荒らして問題になっているカラスです。

カラスは目で食べ物を識別するといわれており、生ごみ等が袋の外から見える状態だと被害に合う可能性が高くなります。対策として、カラスがものを識別する際に重要な役割を果たしているといわれる、紫外線をカットする効果がある特殊な顔料が練りこまれたフィルムで作ったごみ袋を活用した事例もあります。



▲特殊な顔料を使ったごみ袋

## □ 対策フロー

資材の準備  
設置場所の確認

- ・ごみネットの種類を検討
- ・ネットを設置する場所を確認

関係部署との調整

- ・設置場所の管理者等との調整  
例 ・地元自治会 ・土地所有者 等

対策の実施

- ・所定の場所に設置
- ・めくれ防止や、カラスからのつつかれ防止策を施す

効果の確認・  
検証・改善

- ・効果検証  
効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

### 資料編



No.1	カラスにごみを荒らされないための対策の紹介
No.4	行動経済学のナッジを使ったカラス対策
No.21	カラス対策 ごみ容器・カラスネットなどの使用

## 対策Ⅲ－② ごみ箱の設置

### 散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

## □ 対策の特徴

近年は、治安上の理由や、管理、コスト面から、外出時にごみ箱を見かけることが少なくなっています。しかし、場所によっては、ごみ箱を置くことによって散乱ごみの減少が期待される場合もあります。

特に大量の来場者が見込まれる集客イベントや観光地については、来場者数やごみの発生量見込み数を考慮のうえ、ごみ箱の効果的な配置を検討する必要があります。

## □ ポイント

### ☑ 適切な場所にごみ箱を設置する

観光地やイベントでは、飲食関係のごみが多く発生します。ごみ箱を設置する際は、飲食スペースの近くに配置する、のぼりを立てて遠くからでも分かりやすくするといった工夫が考えられます。

### ☑ 適切な頻度で回収する

ごみ箱からごみが溢れた状態になると、その周囲にごみが置き捨てられる状況となります。定期的に巡回する等適切な頻度で回収を行う必要があります。例えば、ごみの蓄積状況を知ることができるIoTごみ箱※の活用も考えられます。

※IoTごみ箱とは、IoT技術を活用したごみ箱で、センサー技術を使ってごみの蓄積状況をリアルタイムで監視できる。



▲ IoTごみ箱

### ☑ 正しい捨て方を分かりやすく示す

ごみの分別について、利用者に分かりやすく伝える工夫をします。例えば、観光地では外国人観光客の利用も想定し、捨て方をイラストや多言語によって示したラベルを貼っておく等の対策が考えられます。



▲ 捨て方の記載例

(リサイクルボックスの投入口に図示)

## ☑ ごみ箱の貸し出しを行う

イベントで設置するごみ箱は、一時的な使用になるため、自治体が無料で貸し出しを行うことも有効です。



▲レンタルごみ箱・のぼり旗

## Column



### 新機能リサイクルボックス

自動販売機の横に設置されているリサイクルボックスが溢れると、その場所にごみが置き捨てられるようになり、ごみが散乱する原因になることがあります。

清涼飲料業界が開発した「新機能リサイクルボックス」は、投入口を見えにくい角度・高さに設計し、カップ等の入らない口径にすることで、異物の混入やごみの散乱防止につながる工夫がされています。

出典 <https://www.jama-vm.com/pages/54/>



▲新機能リサイクルボックス

## □ 対策フロー

### 設置場所の確認

- ・ごみ箱の設置場所を確認  
例 人の出入りが多い場所、散乱ごみが多い場所 等

### 関係部署との調整

- ・設置場所の管理者等との調整  
例 ・道路管理者 ・土地所有者  
・地元自治会 ・イベント主催者 等

### ごみ箱の設置

- ・設置後は適切なタイミングでごみを回収

### 効果の確認・ 検証・改善

- ・効果検証  
効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

### 資料編



No.3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」
No.7	「思わず参加したくなるような投票式の吸い殻入れ」の実証実験
No.17	イベント用ごみ箱等の無料貸し出し
No.18	イベントごみの減量マニュアル
No.19	自販機横”新機能リサイクルボックス”の新たな形での導入促進に向けた実証事業
No.20	海へのプラスチックごみ流出抑制に向けたテイクアウトカップ回収等のモデル事業

# アプローチⅣ ごみを拾う

## 対策Ⅳ－① 清掃活動

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路

小売店の周辺

通学路

河川敷

水路

人目に付きにくい場所

ごみステーション

集客イベント

観光地

### □ 対策の特徴

清掃活動は、公共の場所や自然環境をきれいに保つことによる地域美観の向上だけでなく、共同で活動することによって、地域住民等の連帯感や協力意識が高まることも期待される、地域社会全体の環境意識向上や環境保護に貢献する重要な取り組みといえます。

### □ ポイント

#### ☑ 学生や小売店、地域住民と共同で実施する

地域に密着した場所での清掃活動は、「こんな所にごみがある」という気づきにも繋がります。地域の各主体が共同で活動することで、環境意識の醸成も期待できます。

#### ☑ 清掃活動を組み込んだイベントの開催

イベントのプログラムにあらかじめ清掃活動を組み込んでおくことも有効です。その地域を訪れた人が、商店街やボランティア団体と連携し、ごみ拾いや清掃活動を行うことで、散乱ごみを自分事として捉えることにもつながります。



▲イベント後の清掃活動

#### ☑ 参加しやすい清掃イベントの開催

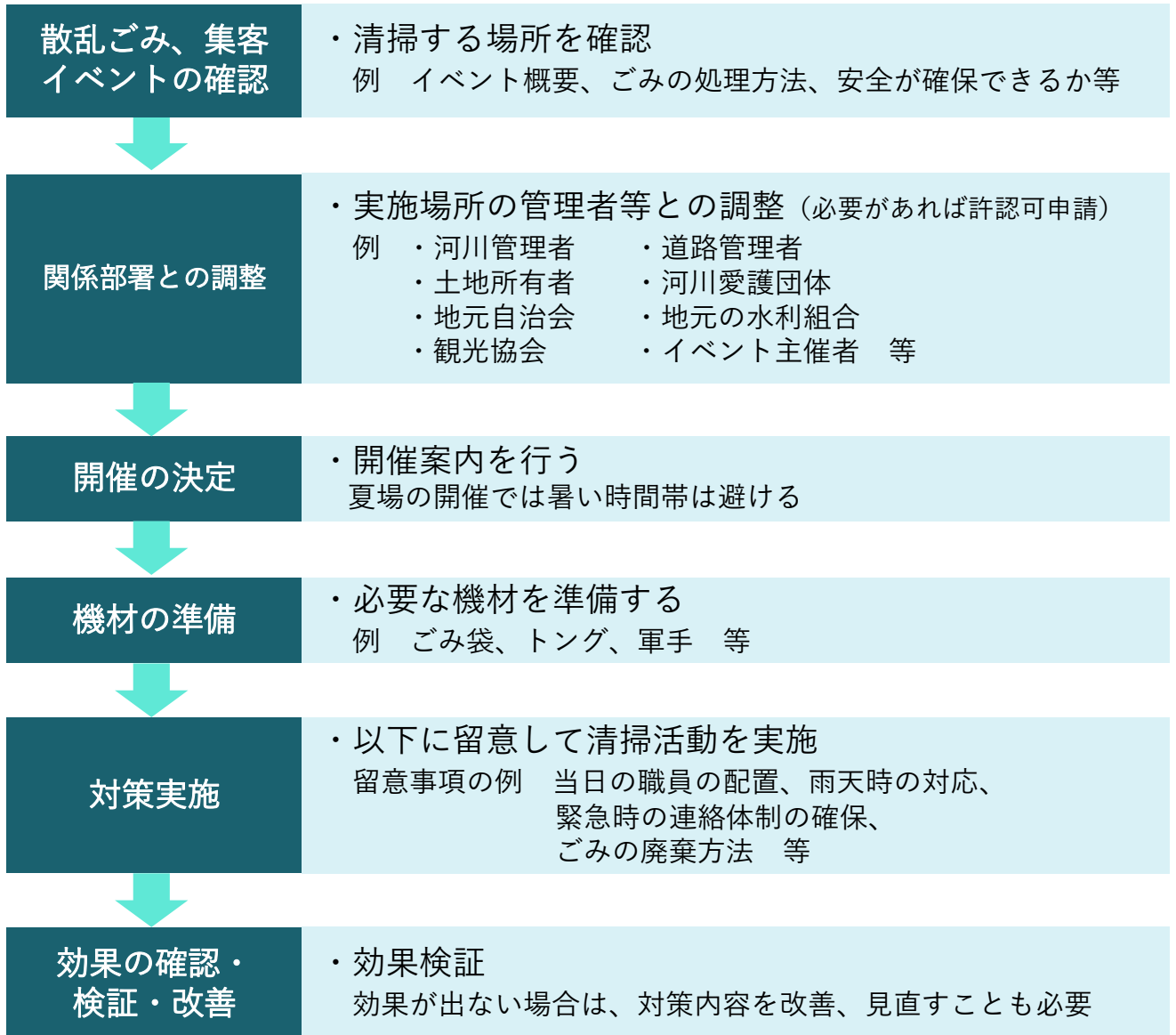
ただの清掃活動ではなく、回収したごみ量をチーム制で競わせる等のゲーム性を持たせた楽しめる内容にすることが考えられます。これにより、普段清掃に参加したことがない人など幅広い層の参加を見込むことができます。



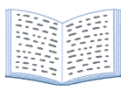
▲清掃イベント\*

\*令和6年度福岡県：みんなでスポGOMI！  
福岡県ビーチクリーニング大会（行橋会場）

## □ 対策フロー



### 資料編



No.2	若手職員による国道1号谷稲葉ICゴミのポイ捨て対策について
No.3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」
No.5	茨城県内における不法投棄対策
No.6	プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言
No.8	IoTトングでひろえば街が好きになる運動with Rethink PROJECT
No.9	アダプト・プログラムの事例紹介
No.13	浅草地区における持続可能な観光地づくりについて
No.15	河川ごみ等回収促進事業（おかやま河川ごみ一掃大作戦）

## □ 対策の特徴

ポイ捨てによるごみの散乱をなくすためには、一人一人の環境美化意識とマナーの向上が大切です。

特に、将来を担う学生に向けては、環境教育を通して、地域の美化意識を醸成させる必要があります。

## □ ポイント

### ☑ 学年や立場に応じた教育資料の活用

環境問題に対する知識や受け止め方は年齢によって異なります。そのため、小学生、中学生、高校生等の立場にあった教育をすることが重要です。

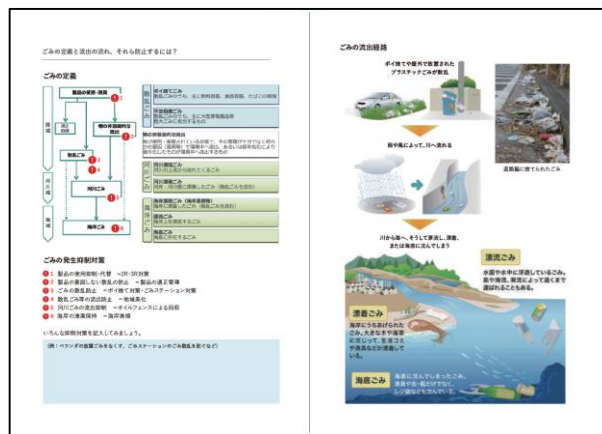


▲小中学生向けの資料



▲高校生向けの資料

\* 出典 「環境省 平成29年度漂着ごみ対策総合検討業務」 (環境省)  
[https://www.env.go.jp/water/marine\\_litter/post\\_41.html](https://www.env.go.jp/water/marine_litter/post_41.html)



▲一般の方、地方自治体向けの資料

\* 出典 「【ハンドブック】ごみ拾いから始める海洋プラスチックごみ問題の解決：一般の方、地方自治体向け」 (環境省) <https://plastics-smart.env.go.jp/education/107/>



## 福岡県の啓発資材

福岡県では、各団体等の環境教育・啓発にご使用いただける、海岸漂着物に関する啓発動画を公開しています。

また、海ごみの現状や影響をかわいらしいイラストとともに紹介するパンフレットや、プラスチックごみの状況についてより詳しく説明を加えたパンフレットなども制作しています。

### 【啓発動画】

#### ○密着！漂着！海のごみに突撃インタビュー！（10分16秒）

「海のごみがインタビューに答える」という構成で、途中で出題されるクイズに答えながら海ごみについて学べる内容となっています。年齢の若い方にも興味を持ってもらえる動画です。



▲動画掲載場所  
YouTubeが開きます

#### ○未来の海を守るため、海岸漂着ごみクリーンアップ大作戦を実行！（18分11秒）

県主催の海岸清掃や漂着ごみアート制作の風景を中心に、イベント参加者や普段から清掃ボランティアに取り組んでいる方などの声を紹介し、福岡の海の現状を伝える内容となっています。



▲動画掲載場所  
YouTubeが開きます

※動画は福岡県庁動画資料館（県公式YouTubeチャンネル）で公開しています。

### 【啓発パンフレット】



これは海の生き物？  
私たちの出したごみ？



プラスチックごみの  
海になる日まで。



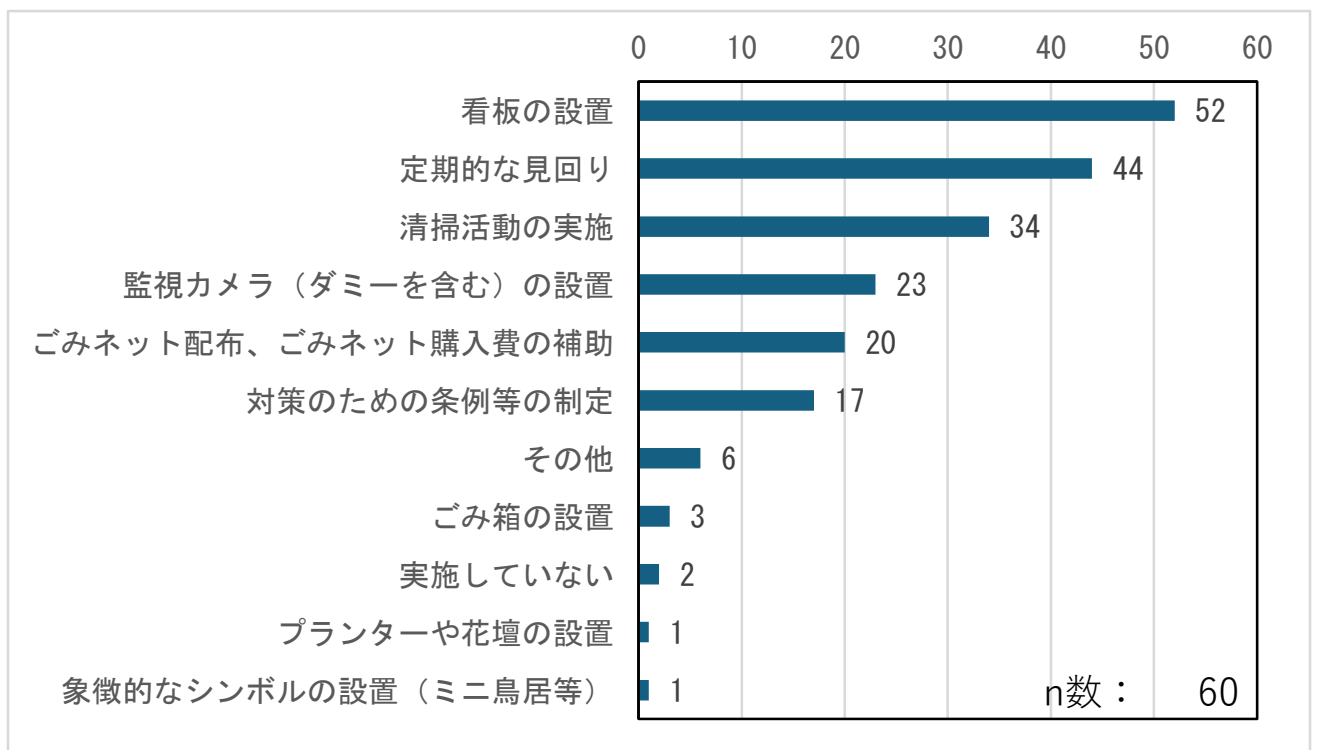
▲パンフレット  
掲載場所

※パンフレットのデータは福岡県HPで公開しています。

## 4 福岡県内の散乱ごみ対策状況

福岡県内60市町村に対し「散乱ごみに関するアンケート調査（令和6年度実施）」を行いました。アンケートの結果、県内市町村が多く取り組んでいる取組は以下の5つでした

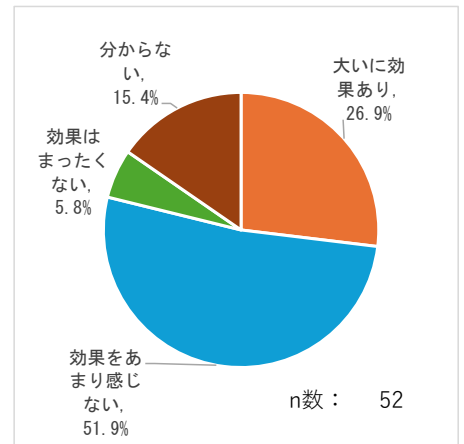
- 対策1 看板の設置
- 対策2 定期的な見回り
- 対策3 清掃活動の実施
- 対策4 監視カメラ（ダミーを含む）の設置
- 対策5 ごみネット配布、ごみネット購入費の補助



## 対策1 看板の設置

散乱ごみ対策のうち、看板の設置を行っている県内自治体数は52で、そのうち、**14自治体（設置自治体の約27%）**が、対策について、「**大いに効果あり**」と評価しています。

対策の実施場所は、「道路及びその周辺」、「ごみ集積所・ごみステーション」、「河川敷・水路」が多くなっています。



### 取組例

- ・苦情の内容に応じて、ごみステーション毎に手作りの看板を設置している。（北九州市）
- ・複数（11種類）の看板デザインを市HPに掲載し、希望者に啓発看板を貸与。（大牟田市）
- ・不法投棄の発生状況に応じた看板を作成している。（大野城市）
- ・車への対策として、反射材を用いた看板としている。また、警察との連携をアピールするため、管轄の警察署名を入れている。（遠賀町）



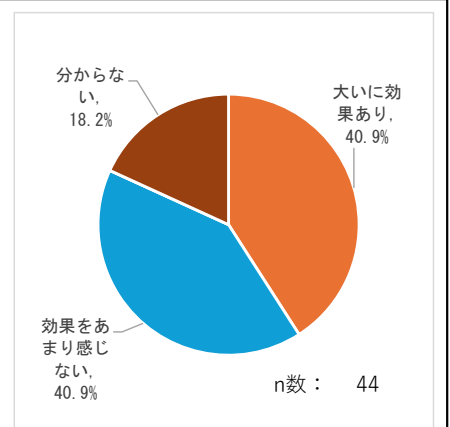
▲大牟田市の貸与看板の一例

(参考：<https://www.city.omuta.lg.jp/kiji0036740/index.html>)

## 対策2 定期的な見回り

散乱ごみ対策のうち、定期的な見回りを行っている県内自治体数は44で、そのうち、**18自治体（実施自治体の約41%）**が、対策について、「**大いに効果あり**」と評価しています。

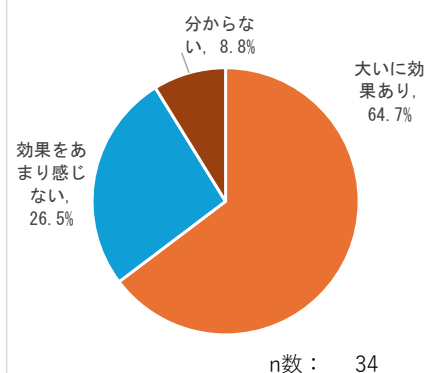
対策の実施場所は、「道路及びその周辺」、「河川敷・水路」が多くなっています。



### 対策3 清掃活動の実施

散乱ごみ対策のうち、清掃活動を行っている県内自治体数は34で、そのうち、**22自治体（実施自治体の約65%）**が、対策について、「**大いに効果あり**」と評価しています。

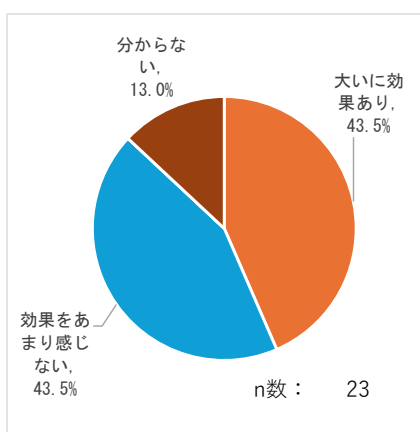
対策の実施場所は、「道路及びその周辺」、「河川敷・水路」、「公園・レクリエーション施設」が多くなっています。



### 対策4 監視カメラ（ダミーを含む）の設置

散乱ごみ対策のうち、監視カメラ（ダミーを含む）の設置を行っている県内自治体数は23で、そのうち、**10自治体（設置自治体の約44%）**が、対策について、「**大いに効果あり**」と評価しています。

対策の実施場所は、「道路及びその周辺」、「ごみ集積所・ごみステーション」が多くなっています。



### 対策5 ごみネットの配布・ごみネット購入費の補助

散乱ごみ対策のうち、ごみネット配布・ごみネット購入費の補助を行っている県内自治体数は20で、そのうち、**14自治体（実施自治体の約70%）**が、対策について、「**大いに効果あり**」と評価しています。

対策の実施場所のほとんどは、「ごみ集積所・ごみステーション」です。

